

みんなの意見を集めよう

Microsoft Forms を活用し意見を集約する

簡単なアンケートから、学習の意見の集約まで、Formsを活用することで手軽に簡単にみんなの考えを集約することができます。

集まった意見は一覧として表示することもできるので、集約したものを展開することも容易に行うことができます。児童の当番活動などにも活用でき、児童が進んで作成し、意見を集約することができていました。

ICT活用のポイント

- ・Microsoft Teamsを利用して、Formsを使うことで、さらに便利に利用することができる。
注意する点として、投票回数を伝えていないと、何度も投票してしまう児童もいることが予想できるため、きちんとしたルール作りと周知が必要。
- ・児童が一から作成するのではなく、あらかじめ教員がレイアウトを作成しておき、児童が内容を編集するという形であれば学年が進んでも再度利用することができる。

<第4学年 様々な場面で>



作成したアンケート集と回答画面

みんなで1つのものを作り上げる～離れていても、共同閲覧・共同編集～

校内作品展に出展する作品を、特別支援学級の児童全員で共同制作し、その手順や作業の様子をGoogleスライドを使ってまとめた。離れた場所でも同時に編集作業ができ、児童の学習意欲を妨げることなく円滑に学習を進めることができた。スライドのページを作成する際には、写真を挿入し簡単な説明を入力した後「データ探索」機能を活用することで、レイアウトにこだわることなく見やすく分かりやすいページにまとめることができた。また、作品のテーマを考える際には、Jamboardを使い意見集約した。付箋に短い言葉で表現するので、タイピングが苦手な児童も自分の考えを表現することができた。

<学習の流れ>

作品のテーマを募集

(作品の制作)

発表用スライドの作成

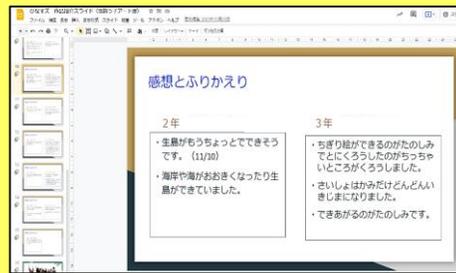
ふりかえり



Jamboardで意見を集約



「データ探索」機能を使って簡単レイアウト



ふりかえりのページに各個人が記入(同時に作業)

ICT活用のポイント

- ・スライドでまとめると、少ない手順で学習を形にすることができるため、集中を持続させにくい児童も、最後まで取り組むことができる。
- ・Jamboardやスライドを活用することで、離れていても同時に作業ができる。また、教師点検も簡単になるため、その場でアドバイスや手直しすることができる。

係活動で取り組んだ作品を友だちに公開する（教育用クラウドサービスの活用）

係活動として、マンガを描いている児童の作品をPDF化し、教育用クラウドサービスにアップし、クラス全体にアップする。クラス全体にアップすることで、友だちからコメントをもらい、活動への意欲につながっていた。また、将来の夢につながる活動にもなっている。

ICT活用のポイント

- ・ICT化することで、いつでもどこでも読めるものになることに大きな価値がある。そして、コメントをしてもらうことで作者、読者双方にとって有意義な活動になる。
- ・この活動に合わせて、情報リテラシーや情報モラルについて、どんなコメントをするべきかなどを考えるきっかけにもなる。
- ・子どものやってみたい気持ちを大切にできるのも大きなポイントである。

<第6学年 マンガ系の係活動>

マンガ係（ニュース）

📄 [びつおの大冒険第5話&特別イラスト](#) 8

📄 [びつおの大冒険第4話](#) 20

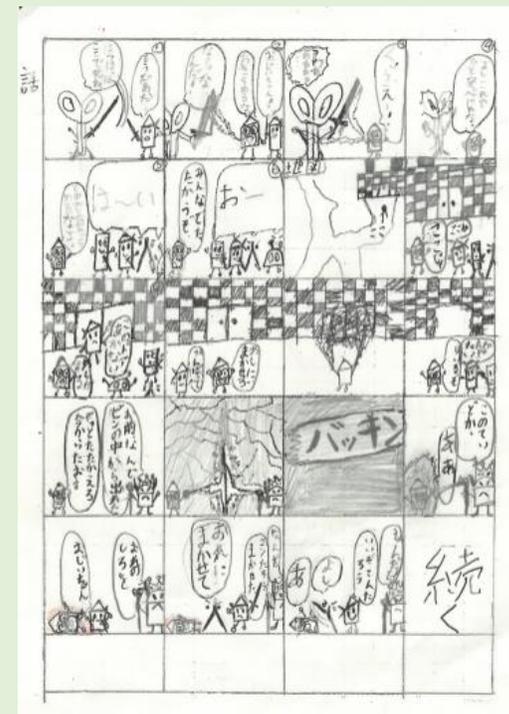
📄 [びつおの大冒険第1話～3話](#) 作：ウマ... 8

▲「マンガ係」のトピック



びつおの大冒険 4話.pdf
PDF

クラスのコメント 20件



▲児童の作品
(びつおの大冒険作：ウマアリ)

◀作品に対する閲覧した友だちのコメント

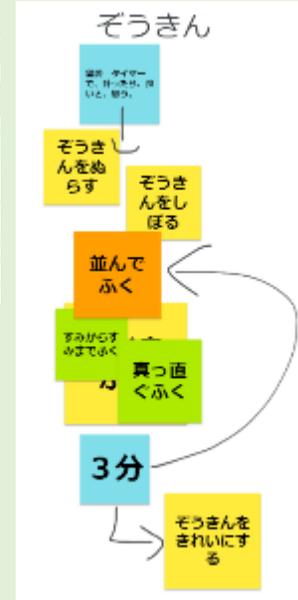
プログラミング×GIGAスクール端末＝「おそうじ大作戦！」

学級内でのそうじをよりよいものにするため、Google Jamboardを使って手順を確かめました。普段のそうじの様子を動画で確かめ、自分達の課題を見つけ、具体的な解決策を考えました。解決策が実行できるよう、必要となる手順をJamboardを使って確かめました。課題を解決するために協働的に取り組むことができました。解決策を実行した後、さらにその様子を動画で撮影し、どこがどうよくなったのか、まだどんな課題があるのかを客観的に振り返る機会を作ることができました。

<特別支援学級 学級そうじ>

ICT活用のポイント

- ・自分たちの様子を動画や写真で客観的に捉えることで、自分の“できているつもり”に気がつくことができる。
- ・画像に付箋を貼ることで、課題を明確化・焦点化・共有化することができた。
- ・手順を考える際もカードを容易に並べ替えることができるので、協働的に試行錯誤する姿を見ることができた。
- ・端末で撮影した動画は、何度もくり返して見ることが容易である。



課題を見つけ、解決のための手順を考える



改善後の掃除の様子（動画：5秒）

コロナ禍における長期出停児童に対するオンライン環境を生かした支援

長期出停児童に対して、オンタイムでの実施になると、ネット環境に関するトラブルの心配や授業の仕方の工夫が必要であり、無理をする必要がある。

右の図のように、録画授業の配信を中心としたパターンにすることで、無理なく行うことができる。

誰が、いつ、休んでも同じ対応ができる。
また、児童とオンラインでつながることで、「学習への心配はないか」「体調はどうか」など確認できる。可能なら、友だちとつながる時間帯を設定するなど、コーディネートすることもできる。

ICT活用のポイント

- ・端末の持ち帰り許可が前提となる。
- ・日常的に教育用クラウドサービスを使う習慣をつけておく必要がある。全ての授業の動画をアップするのは時間的にも容量的にも限界があるので、教科を絞って配信する。そのほかの授業については、授業後の板書をアップすることで補う。

長期出停児童に対するオンライン支援

新型コロナウイルス等
感染症対策案

支援	内容
録画授業	授業の様子を可能な範囲で録画し、 ～16:00 Google classroomにアップする。
予定・宿題連絡	Google classroomで連絡する。
個人面談(会話)	16:00～ Meet で面談する。※電話で会話も可。

	日中	放課後
出席児童	授業 学校で友だちと	宿題
出停児童	宿題	録画授業とMeet 家で友だちと

オンライン支援実現のために

- ・5,6年生に続き、3,4年生も持ち帰りを行う。
※1,2年生は要相談
- ・予定・連絡等をclassroomで行う習慣づけ。
- ・教科等を絞って授業の録画を行う。録画機器は、ビデオカメラ及び、教員用タブレット、またはパソコンを使用する。

2021.8.24 和田小学校 情報推進担当

▲実際に学校で提案したシート